

文化の白子

第37号 令和4年3月31日
編集・発行 白子町文化協会

<主な内容>

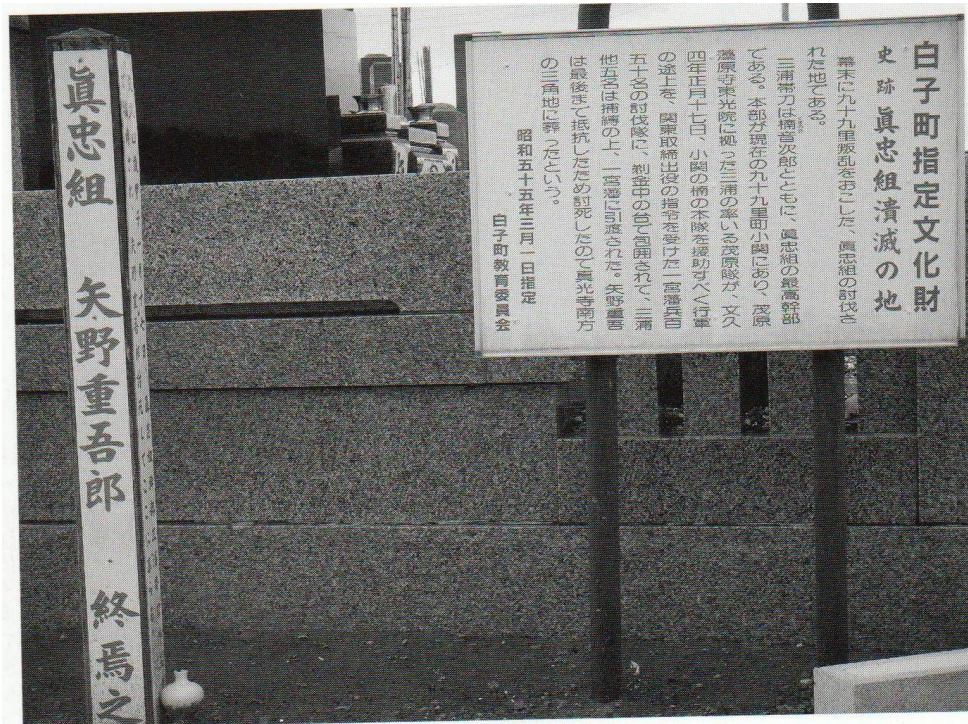
- ・真忠組潰滅の地・・・巻頭
(矢野重吾郎終焉之地)「町指定文化財」
- ・ふるさと歴史発見・・・2～5
(九十九里叛乱終焉之地)
- ・サークル活動報告・・・5～6
- ・編集後記・・・・・・・・・・6

町指定文化財(史跡) 昭和五十五年三月一日指定

真忠組潰滅の地 (矢野重吾郎終焉之地)

か い め つ

し ゅ う え ん



撮影協力：真光寺



案内図

白子町剃金中の台かをめ(真光寺境内)

「白子町剃金中の台かをめ」では、文久四年正月十七日(一八六四)真忠組党主や党員の捕縛事件があった。

この時、一宮藩兵数十名に包囲されながら、矢野重吾郎は最後まで抵抗したため立ち処に討伐された。

その後、地元村で彼の供養塔を建てたが、昭和四十年南白亀地区土地改良事業の折、喪失してしまった。

しかるに、^{かはん}過般ここが白子町文化財の史跡に指定される事となったので、^{けいだい いちげう}墓標を旧位置に近い、真光寺境内の一隅に移し、昭和五十八年、白子町教育委員会で^{こんりゆう}建立したものである。

参考資料 (・白子町の文化財 白子町教育委員会 平成八年三月発行

・ふるさとの歴史〜白子の群像〜 千秋社 牧野 誠一

昭和六十二年二月二十日発行

ふるさとと歴史発見

〽九十九里叛乱終焉の地
(幕末真忠組騒動) 〽

と三浦帯刀を首領とし、農民や無宿者そして浪人で構成された真忠組の引き起こした騒動である。

真忠組は山辺郡小関(九十九

里町)の旅館大村屋に「真忠組義士旅館」の看板を立て本部と

し、後には八日市場(匝瑳市)の福善寺と茂原(茂原市)の藻

原寺東光院に*屯所を置いた。

尊皇攘夷を唱えながらも、開

国以来の人々の困窮を救う目的で横浜を襲撃するという攘夷に

力点が置かれていた。また、窮民に対して施し米や施し金の救

民活動を行った。豪農や網元といった村役人層から金銭・米・

武器を徴発し、三十四件もの施し米・施し金を行っている。

こうした真忠組の動きは*関東取締出役によって探索され、

反幕府的活動として上総・下総に領地をもつ六藩に討伐の命が

下った。一月十七日、関東取締出役と東金に領地をもつ東北福

島藩が大村屋を急襲し、楠音次郎ら七名が討ち取られた。八日

市場屯所には多古藩と佐倉藩が討伐に向かい、茂原屯所には一



「大村屋」に襲撃をかける東金・板倉藩兵

(1) 幕末真忠組騒動の概要

幕末の文久三年(一八六三)

騒動十二月十二日から約一か月間、

組片貝(九十九里町)を中心とし

た九十九里浜沿岸で、貧民を救済し攘夷を実行するという世直し騒動が起こった。

楠音次郎

宮藩が差し向けられた。大村屋急襲の報を受けた茂原屯所の三浦帯刀らは、本部救援のため小関に向かう途中、関(白子町)で一宮藩兵に追いつかれた。三浦は剃金中の台かをめぐめ(白子町)まで逃げたが、力尽き投降した。



矢野重吾郎終焉の地(白子町)
矢野重吾郎は最後まで抵抗して鉄砲で討ち取られた。

この真忠組騒動は、百四十人ほどの組員のなかに武士階級は八人だけであり、無宿者も組員に含み、押し込み強盗的な徴発活動に対して、単なる騒擾事件だったとの評価がある一方、貧民層を組織したり、貧民の救済活動を積極的に行うなどの世直



真忠組志士鎮魂碑(九十九里町)
首謀者である楠音次郎と三浦帯刀の辞世の句が刻まれている。

的側面に注目し、幕末の社会革新運動としての評価もなされている。

(2) 一般的な幕末真忠組騒動の考え方

この事件のことを「真忠組騒動」あるいは「大村屋騒動」と呼び、当時にあつては大へんに評判悪く、喰いつめ者の浪人共が、尊皇攘夷倒幕などと大袈裟に騒ぎたて、刀を抜いて*富豪や富商、網元たちを脅迫して騙りとり、救民などと称し、施米・割付などしたのもその言い逃れに過ぎず、野盗の類と異ならず、などと言われていた。また彼らが獄門首に晒されたのも当然の報いである、とも語り継がれ、そして、それはいかにもまことしやかな風説となつて今日まで、当時の支配者側の一方的な言説がおしつけられてきたのであつた。

(3) では、この事件は本当にそうだったのだろうか?

誰もが、この事件の本質的なもの、その中に「在る」ものを探ろうとせず、誰一人解明の手を差しのべようとしない者なく過ぎてきたことをどのように解釈すべきなのだろうか?

彼ら真忠組が、文久三年十二月十七日の朝より、茂原の東光寺を出て近隣一帯に撤布したと伝えられる「以書付申触候事」という七文字を表書きにした触書は以下の内容である。

「以書付申触候事」

この世に生を受けたる者にして四民平等の世を願わぬ者なかるべし すでに武家専横の世久しく幕府の酷政二百数十年民に生色なく飢えに死する者その数知れず これを訴うる者を獄につなぎこれに反く者を獄門に晒して天道に愧じず 人を人と思わず犬畜生の扱いにて斬捨御免の暴虐をきわむること甚だしく

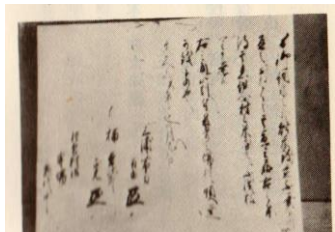
民心の幕政を呪うこえ山野巷に満ち世情騒然として倒幕攘夷勤皇のこえ拳がる 我等は全国津々浦々の義勇の志ある者と同盟を結び身命を投じて救国救民倒幕を旗じるしとして事挙げするものも也 外に夷狄条約を迫り 内に幕府役人 驕奢賄賂酒色に耽り人民の酷税に喘ぐを

かえりみず かくの如き天地神明に背くこと民心断じて許さざるところなり ようやくにして倒幕蹶起の機至り 我等房総支配役として任命され当地の人々とともに全国一斉蜂起の一翼を担いて起つ也 永い間の悪政に耐え来たりし農民漁民よ 起ちて倒幕の旗を進むるため結束すべし 驕る平家は久しからずとか徳川の命脈またようやく尽きんとす 我等真忠の義士ひとたび起

たなか 江戸幕府の 剿滅期して待つべし 我等は貧窮者のため 施米割付の救恤をなし 幕府に代りて政事の根本を正し司る者なれば此事大惣代惣代各村役及び富豪富商等よく弁え分に応じたる金員米穀の寄財に応ずべし 又武具類一切隠さず差出すべし 更にすべての借金の棒引 婦女子の売買を禁じ 高利を禁じ 下婢下男及び納屋衆の前借金の棒引を申付るものも也 当支配所は理非曲直を糺す訴願訴訟を聴き公開の上にて裁判をなし

無道なる者に懲罰を加え善政の範を示し民心を安んぜんとす 右の趣旨各々よく弁え決して当支配所を侮るべからず 此事各寄付村々組々へ筆写の上本紙に継紙致し拠出金員米穀武器等明細記載の上次寄場に早々に廻し即刻完了の事を命ず 尚窮民の者共併せ調べ最寄支配所に届け出すべき旨申付るもの也 百姓小前下々に至るまで此触書の次第分明せしむべし

これを怠りたる者屹度糾明厳罰あること心得べし 文久三年亥十二月 天朝之赤心同盟 真忠組総支配所 松本熊太郎組 (花押) 房総支配役 三浦帯刀有国 (花押) 同 楠音次郎正光 (花押) 茂原東光寺役所 林寅之助忠広 (花押) 片貝大村屋役所 大高泰助久信 (花押) 八日市場福善寺役所 山之内額太郎兼忠 (花押)



名主や組頭などに回した「回状」(海保四郎氏蔵)

このような触書がかつて有っただろうか?

これが、瘦せ浪人共、無頼の徒の、公然と名乗り出た姿であったのである。

当時、農民一揆なるものは日本全国の至るところに起こり、それはそれなりに当然起こるべくして起こったものであり、幕府の圧政を覆えそうなどと謀ったものではなく、それら地域住民の必死な願いをこめての

「哀訴」、あるいは「歎願」の域を出ないものが多い。承応二年(一六五四)の下総国の佐倉藩内木内宗吾の例などその典型的なものであり、正徳四年(一七一四)武州小金井の一揆など二万人を超える群集となり大暴動に発展、さらに天文三年(一七三八)奥州浅川では八万人もの大群集が喚声を上げて城下に迫り、十八ヶ条の歎願書を突きつけて藩主をふるえ上がらせ大勝利したことなど記録にある。八万もの大群集にふくれ上がりながらも、それが倒幕などという意識への発展はなかったのである。特に甲州郡内一揆などはその数においては空前絶後とされ、

現在の太田市から甲府までの間、延々二十余里の街道を二十万の人で埋めたとされる。天保七年（一八二六）のことであった。この大群衆をもってどうして倒幕への発展が画策されなかったのか。そこに指導者の「意識」と「明察」の欠如が嘆かれてならない。

程 (4) ※10 蜂起が辿る潰滅への過程

事件そのものの「真実」を探ることは容易でない。なんでもなく看過される片々たることでもなおざりにはできない。そのもつとも顕著な例が、「全国同盟の義士云々」の文字である。これは実に見えすいたハツタリ以外の何ものでもなかったのであるが、三浦は自分が絵師として全国を廻り、彼が佐藤信淵から得た「垂統秘録」の思想を心ある人々と会って論議したことは疑いない。にもかかわらず、それが全国同盟の義士としての結果には難しく、それは彼の夢であり、そうであつたならば・・・

騒動と、心底から念願するものを、その心の呼びかけを、彼らの蹶起への一つの戦術としたと考えられる。だが、事実この戦術は、討伐軍に二の足を踏ませていたことは争えない。江戸幕府のお

膝元に近く、公然と倒幕の旗を挙げながら一か月もの間放罪してあつたということは、この間、幕府側にある恐怖感を抱かせていたのだ。

彼ら真忠組の運動方針を列挙してみよう。

首脳部は頻繁に会合を持った。それが集まる者として、小口順之助こと三浦帯刀、樋山民弥こと楠音次郎、樋山の二子小四郎、医師藤代昌琢、茂原東光寺住職、暁雲こと林寅之助、八日市場福善寺住職祥元こと宮崎七郎、八日市場で紺屋業をしている太田屋太平こと千葉源次郎、八日市場で剣術の道場を開いている桜井弥平治こと山之内額太郎、江戸で古物商をやっている道具屋国之助こと西郷五郎右衛門、水戸天狗党脱党・批判者大高泰助、及び浅井敬斎等十一名。彼ら真忠組に刀剣類、鉄砲、衣類などを調達したのは江戸の道具屋であつた。

八日市場、片貝、神宮寺、茂原の四か所の私塾から選ばれた隊員百数十名が、茂原の東光寺に集合したのが、十二月十六日の早朝で、彼らはその夜東光寺に泊り、翌早朝から前掲の触書を近隣の名主惣代のところへ届けて廻る。触書を見た名主惣代はびつくり仰天し、村役人に集

合を命じて触書の内容を検討し、彼らの寄財に応じることになる。米穀と金品が三か所の支配所に集められ、二十日にこれを貧しい庶民に分配した。

(5) 「真忠組顛末記」

真忠組浪人共元治元年三月廿九日
御仕置の仰付
津田英次郎家来 小口順之助事浪人
三浦 帯刀 此者儀夷狄掃除御国恩を報度旨上総国井之内村に罷在候楠音次郎申聞候を最初寅年より存同意致候儀に候より持不宜主人津田英次郎より申付穴居候身分・・・人民群集不致候付事逐貧民を救つて自然民心傾可申旨を申合既に音次郎認候廻文は恐多き



真忠組一件絵巻 (図説千葉県の歴史より)
関東取締出役と福島藩兵は、討伐のため「大村屋」を急襲した。この攻撃で楠音次郎ら7人が討ち取られた。その時の様子を描いた絵巻である。

文書を書銘有之候・・・蒙味の徒を誘引多人数党を結合同国小関村大村伊八方を旅宿に致真忠組義士旅館杯と認候掛礼いたし弓鉄炮槍を・・・者共へ申付・・・日夜暴発暴威を示し出入筋申出又は張訴捨訴を取用夫々呼出理非弁別も不致金子濟方申付或出為過怠・・・

差出拒候・・・縛置手荒に打擲を
もいたし村々無頼無宿を追々蟻集
致候に随ひ貯をも無之日々飲食にも差支候 多人数之者共小衿制羽織を着帯刀をも為致槍鉄炮を携両総村々押歩行所々百姓家に理不尽に踏込・・・人民を却し差拒候節は是又打擲為致或は・・・

(次ページへつづく)

(前ページより)

・・・凡^{およそ}窮民救与^{きうよ}・・・武器類奪
 取下総国八日市場・・・同国刺
 金村地内にて捕方人数・・・公儀^{こうぎ}の
 仕方不始末不届至極に付引廻之上
 小関村新田地内において獄門に行
 ふもの也・・・

なしているものは「垂統秘録」
 であり、そのユートピアに憧れ、
 これをこの世に実現してみよう
 と途方もない企てをしたのは三
 浦帯刀であり、その無暴き、非
 常識さ、思慮分別を欠くものと
 非難されようと、そこにはやむ
 にやまれぬ武士支配の世をなん
 とかしても廃絶しなければ貧し
 い多くの人民の救われる道はな
 い、という判断の上に立つての
 行動であったのだろう。

(補足説明)

①屯所

たむろする所。

②関東取締出役

江戸幕府が文化二年(一八〇五)
 に創設した職名。関東八州(水戸
 領を除く)の領地・私領を巡回、
 警察の任にあたった。八州廻り。

③富豪

・大金持。財産家。

④勤皇

・天子(天皇)に忠義を尽くすこと。
 特に、江戸末期、朝廷のために
 徳川幕府打倒をはかった政治運動。

⑤夷狄

・野蛮な異民族。えびす。(田舎人)。
 荒々しい武士。

⑥驕奢賄賂酒色

・驕奢↓ 情勢におごること。
きやうしやわいろしゆしよく

贅沢であるさま。酒と女色

⑦剿滅

・滅ぼしつくすこと。

⑧下婢

・卑しい。

⑨無頼

・正業につかず、無法な行いをする者。

⑩蜂起

・蜂が巣から一時に飛びたつように、
 大勢の人々が一斉に立ち上がっ
 て実力行使の拳にでること。

⑪打擲

ちやうちやく
 ・拳や棒などでうちたたくこと。な
 ぐること。

⑫蟻集

ぎしゆう
あり
 ・蟻のようにむらがり集まること。

(参考資料)

・ 函説 長生・夷隅の歴史

二〇一〇年二月二十四日発行

郷土出版社

・ 九十九里(幕末真忠組事件)

昭和五十六年五月二〇日刊

林清継 著 著庵書房

・ 白子町の文化財

平成八年三月発行

白子町教育委員会

サークル活動報告

押し花サークルさくら会

長島加代子

道ばたに咲いている草花や葉、
 野菜や果物まで押し花にして、
 作品を仕上げていきます。

自然に親しむ機会が多くな
 り、一生の趣味として楽しめる
 と思います。ただ、会員が高齢
 になり、先生も白子町まで来て
 いただくのが、大変になってき
 ています。

四月からは、自主活動になる
 かもしれませんが、頑張っつて続
 けていくつもりです。

皆様、お気軽に見学に来てくだ

ださい。(活動日時) 第二・第四水曜日

午後一時半から三時半

(場所) 青少年センター

(会費) 月 千円



白子絵手紙の会

片岡 京子



私たちのサークル「白子絵手紙の会」は、「ヘタがよい、ヘタでよい。」をモットーに、気楽に好きな絵を描き、それを感じた言葉を添えていきます。世の中の困ったことも一時忘れ、昔にもどってワクワクしながら、全力で物描きをすれば、相手に伝わり、楽しいものです。主な活動は、長生病院への展示、美術館での絵手紙作品見学等です。初心者大歓迎ですので、皆さんのご参加をお待ちしています。

(活動日時) 毎月第三土曜日 一時～三時

(場所) 青少年センター

(会費) 月 四〇〇円

レファ・トヨコ・オハナ

井上 豊子



私たち「レファ・トヨコ・オハナ」は、月三回フラダンスのレッスンをしています。その内二回のレッスンは、先生と生徒のスケジュールを調整してレッスンを決めていきますので、各自の都合が良い時にレッスンを入れることができます。日頃の忙しい時間を忘れるくらい楽しいサークルで、先生も生徒も和気あいあいとして、練習に励んでいます。どなたでも気軽に参加してください。お待ちしております。

(活動日時) 日時は要相談

(場所) ふれあいセンター他

(会費) 月 六千円

白子ヨーガサークル

和田 教子



病気に対する免疫力、抵抗力を高める佐保田ヨーガ体操を始めてみませんか！葛先生の指導のもと、ゆっくりと一つ一つのポーズを無理なく、深い呼吸をしながら全身を使って行います。難しい動きではなく、誰でもできる簡単な動作です。ポーズの後に脱力、リラクセスすることで血流が良くなり、体温が上がり、自律神経のバランスが整い、免疫細胞が活性化されます。体験レッスンOKです。

(活動日時) 毎月第一、三木曜日 十時～十一時半

(場所) 青少年センター

(入会金) 千円 (会費) 月千円

編集後記

文化の白子第三十七号をお届け致します。原稿のご寄稿と写真・資料をご提供いただきました方々に感謝とお礼を申し上げます。

二年続きで、研修視察と生涯学習フェスティバルが、コロナウイルス感染症拡大防止のために、中止になりましたが、各サークルの皆様には、感染に注意しながら、活動を続けていただきたいと思います。

編集委員長 育野 建男
編集委員 長谷川 太江子
同 古内 せい
同 片岡 幹男
事務局 長島 正明
大多和優子

文化の白子第三十七号

発行者 白子町文化協会会長

大多和 秀一

事務局 白子町教育委員会

生涯学習課内

電話 (二三三) 二一四四

FAX (二三三) 七四六一

題字・友書会 三浦 静子書